



利用しやすい鉄道を目指し、NPO法人ちゅうぶの皆さんと交流！

2月10日、新幹線関西地本の三田特別執行委員と本部畑野副委員長がNPO法人「ちゅうぶ」を訪問しました。「ちゅうぶ」は生活の中で様々な制限がかかる障がいを持つ方々が「200万回の選択」を実現する社会づくりを目指して、活動している障がい者支援センターです。

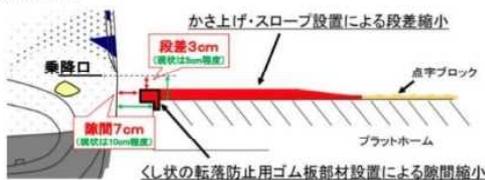
その代表理事をされている尾上さん(認定NPO法人DPI(障がい者インターナショナル)日本会議副議長)が、「ちゅうぶ」の皆さんと、1月22日、JR新大阪駅の新幹線26番ホームの11号車東京方の新幹線車両とホームとの段差と、隙間の検証に来駅されました。

JR東海が、2023年8月にホームの段差改善の為にホームの嵩上げを発表し、刷子ゴムを設置しました。前日の1月21日にはNPO法人DPIの皆さんが東京駅の検証を行っています。新大阪駅の検証には「ちゅうぶ」の皆さんをはじめ、JR東海営業本部から2名、関西支社から3名と国土交通省の外郭団体であるエコモ財団からは2名の担当者が立ち会い、検証が実施されました。

国土交通省の示しているガイドラインの隙間7cm、段差は3cmとなっているのは、車両とホームとの隙間と段差について検討が加えられた時の経過によるもので、全体の90%が問題なく利用できるという回答した数値であり、現実には隙間5cm、段差2cmが望ましいとしています。しかし、新大阪駅の実際の計測では隙間は7.5cmで、基準をクリアしていませんでした。

別紙1 新大阪駅における車両とプラットフォームの段差・隙間縮小対策

○整備内容



●「ちゅうぶ」の皆さんとの意見交換の場に出された意見の一部です！●

- ★「JR東海は隙間7cm、段差は3cmの基準はクリアしているとしながら、実際の計測によると隙間は7.5cmで、基準をクリアしていない。」
- ★「大阪メトロは最大で隙間は3cm、段差2cmであり、ほぼフラットな状態なのに何故、JR

東海は出来ないのか疑問。」

- ★「新大阪駅北口からの万博直通のシャトルバスは障がい者はスロープが無く乗車出来ない。」
- ★「JR東海新大阪駅構内のエレベーター位置の表示が、中央改札口からは分かりにくい。」
- ★「乗換改札口から、27番線に行くエレベーターは混雑が常態化していて、車椅子利用旅客は乗り遅れる可能性がある。」
- ★「万博に行く最善のルートである直通の列車への案内表示や告知は明確にして欲しい。」

JR東海は、障がいをお持ちの乗客や関係者の声に耳を傾け、安全で利用しやすい設備をとすべきです！

まさに、JR東海会社の親方日の丸、上から目線の企業体質と障がい者を軽視する姿勢が明らかになりました。最も問題なのは、国土交通省のガイドラインを遵守しているとして豪語しながら、実際の隙間は基準外である事が検証で、判明しています。今回の検証をアリバイ的なモノとせず、障がいを持つ新幹線旅客の声に真摯に耳を傾け、4月からの大阪万博を前に、早急に改善することが求められています。

私達は今後も「ちゅうぶ」の皆さんとの交流を進めていきながら、障がいを持つ旅客の皆さんが利用しやすい鉄道会社を目指す為に、奮闘していきます。